

資料：高知ダルクによるゲストスピーチ逐語録（その3）

Document : A Literal Record of Guest Speeches by the Members of Kochi DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center) No.3

加藤 誠之（高知大学教育学部）
高知ダルクの皆さん

KATO Masayuki 1, Members of Kochi DARC 2

1 Faculty of Education, Kochi University
2 Kochi DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center)

ABSTRACT

28th January and 24th May 2019, we had guest speeches by the members of Kochi DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center) in Kochi University. This document is a literal record of these guest speeches.

I. はじめに

筆者は、2019年1月28日(月)に開講された「生徒指導・進路指導C」及び同年5月24日(金)に開講された「教育科学基礎演習I」(いずれも高知大学)で、薬物濫用経験者の自助グループ高知ダルク(DARC, Drug Addiction Rehabilitation Center)のメンバーの方をお招きし、ゲストスピーチを行っていただいた。本稿はこのゲストスピーチの逐語録である。本稿では、聞き取れないところは……で示した。また、一部の固有名詞は伏字(**)にした。

II. 2019年1月28日(月)のゲストスピーチ

【ルアンさん】

まず、自分のこれまでの話をさせていただきます。私は8人きょうだいの4番目として生まれました。父はトラックを動かしてる自営業をしていて、母は保険会社に勤めていて、結構、裕福な家庭で不自由なことなく過ごしていたんですけど。私が小学校2年生か3年生ぐらいのときに両親の仲がすごい悪くなって、父が夜遅くに帰って来て、母親に手を上げたりとか暴言を吐いたりとかしてて、私たちは家の2階に避難する生活になって。そういう生活が1年半くらい続いたんですけど、あるとき父の暴力がひどくなって警察沙汰になったんですけど、それで両親が離婚することになって、きょうだい、そのときは6人かな、7人いたんですけど父親から「どっちに行ってもいい」ってことを言われて。他のきょうだいはみんな、母親のところに行ったんですけど、私は父親のほうが好きだったので、父親のところに一人で行って父親に育ててもらってたんですけど。

それから父親と2人で生活するようになって、相変わらず父は仕事に行って夜遅くにならないと帰って来なくて、12時とか1時ですかね、そのくらいに帰って来てご飯とかも作ってくれなくて。ただ、「ご飯作って」って私が言うんですけど、でも俺は仕事行って疲れてるんだってことを理由にして、いつもすぐ自分の部屋にこもっちゃって。私はそれでご飯とかもやっぱり自分でも作れなかったし、お金もなかったしご飯を食べれないっていう状況になって。

ま、学校にはちゃんと行ってましたね。学校はすごく好きで、友達も結構多いほうで、放課後とか公園に友達と行ったりとかして遊んでたんですけど。そのときに友達の家に行ってご飯を食べさせてもらったりとかそういう生活してたんだけど、そういう生活が続くとやっぱりどんどん痩せてったんですよね、自分が。で、学校の先生がちょっとおかしいんじゃないかって話になって、児

童相談所に行くことになって。児童相談所に1カ月くらいいて、ちょっと落ち着いてきて家に帰ろうかって話になったんですけど、ま、その児童相談所はこれまでの生活とか父親の問題ある行動とかを知ってたので、やっぱり父親の下には帰らないほうがいいんじゃないかっていう意見だったんですけど、母親が引き取るのが難しいってことで、私はまた父親の下に帰るんですけど。

でも、やっぱり状況っていうのは変わってなくて、相変わらず父は帰って来なかったりとか、ご飯食べさせてくれなかったりとかそういうのが続いて。

父が、そのときはまだ気付かなかったんですけど、アルコールに問題がある人で。小学校6年生ぐらいのときに父が入院したんですけど、そのときに私は母親のところに行くことになって。そしたら、母親に「ま、あんたは父親のところに行ったのに、なんで私がいまさら面倒見なきゃいけないの」って言われたんですよね。

で、そこからちょっとずつ、母親からの暴力とか暴言とかが始まったんですよね。最初は、今だったら笑えるんですけど、ご飯を食べてるときに部屋の電気をつけてたんですけど、そしたら「おまえに払う電気代はないよ」って言われて電気を消されて、私は携帯のライトで照らしながらご飯を食べてたんですけど。ま、そこからどんどんエスカレートしてって、冷蔵庫にあるものを食べてたら母親に「あんたの分はない」とか言われたりとか、きょうだいと会話したら、よく分かんないけど物が飛んで来たりとかそういうのが結構あって。

私は話さないっていうのはできなかったんで携帯で話をするようになって、それが親にばれて、今度は家に入れてもらえなくなったんですよね。で、家に入れてもらえなかったときはすぐくつらくて。でも、入れて、入れてって言っても入れてもらえないっていうのが分かってたから、私は夜の街をぶらぶらしてたんですけど。そしたら、危ない人に声を掛けられて、「一緒に遊びに行こう」って言われて、一緒に遊びに行ったらお金を渡されて。最初はお金をもらうだけだったんだけど、そこから体の関係を持つようになって、自分の体を売ってお金を手にして、それで自分の好きな物を買ってっていう生活をしてて。

で、最初は援助交際をずっとやってて、それがずっと続いて、そこから私は覚せい剤に出会うんですけど。ま、私が援助交際して声を掛けられた男の人が暴力団の人で、その人が部屋に入ると茶封筒からなんか怪しいものを出してきたんですよね。で、「君はまだ若いからこういうのはやらないほうがいい」とか言われたんだけど、私もそれにすごい興味があって、貸して貸して一ってやって1回打ってもらったんですよね。それが15歳ぐらいのと

きだったと思うんですけど、初めて注射をしてすごい気持ちちは良かったんですね。自分はそれがいけないものだっていうのは分かっている、でも、やったときはこれだけにしようって思ってたんですけど、やっぱり薬が切れるときっていうのがすごいつらくって何もできないんですね。とりあえずしんどくって、でも帰んなきゃいけないし、だから「もう1回だけ」って言って2回目を打ってもらったんですけど。ま、それで家に帰ってる途中に私は補導されて、1回目の少年院に入るんですね。

で、少年院に入って、ま、薬物はいけないものだっていう勉強を受けて。最初に行った少年院が短期の少年院で、半年で出てきて、柄受けが母親だったので母親の下に帰ったんですね。で、帰ってもやっぱり。少年院に面会に来てくれたんだけど、母親が。面会に来てくれたときは「今まですごい悪かった」とか「私のせいでこんなひどくなっちゃって」とかいろいろ言ってきてくれたんだけど、でもそれはうそだったんですね。家に帰ると、「なんであんたが帰って来たの」とかまた始まって、もう嫌だと思って、私はまた危ない人のところに連絡をして。

少年院でやっちゃいけないってことも言われたし、先生とももうやらないって約束したから自分はやらないんだって思ってたんですけど、でも見たら駄目だったですね、私は。すごいやりたくなくて、まあ、半年やらないで済んだんだからって、1回だけだったらすぐやめられるんじゃないかなって思って1回目またやったんだけど、やっぱりやめれないんですね。もう私は1回やったら何回やっても一緒だって思って、そこからずーっと使うようになって。1年くらいずっとぶっ続けで使ってきて、使ってるときっていうのは、自分でも今、振り返るとやばかったなって思うことも結構してて、犯罪っていわれるようなことをずっと繰り返してやってきて。

でも、2回目も捕まるんですけど、2回目捕まったときは、私はそのときに家に帰ってなかったんですね。家に帰ってなくて、保護観察中だったんですけど、1週間以上の外泊をするときは観察所に連絡をしないといけないんですけど、その連絡をしないで1カ月とか2カ月とか外泊をしてて、訪問とか受けてなくて。それで観察所から少年院のほうに、最近、家に帰ってないらしいんですけどって話をされて、違反だから逆送にするか観察所に呼び出してもう1回指導するかって話が出てたらしいんですけど。家にも通知のはがきが来てて、まあ、でも私は家に帰ってないからそのことを知らなくて。

私、そのときの彼氏に「一緒に住もう」って言われて、一緒に住んで住所を地元の市役所に出したんですけど、そのときに次の新しい住所を私は丁寧に書いてやってね。それで観察所の人が新しい家に来て、私はそのとき使っ

てたんですね。で、使ってて、様子がおかしいってことで、受け答えもうまくできてなかったんですね、ろれつも回ってないし目はとろんとしてるし。そのとき夏だったと思うんですけど、私、家だからと思って半袖のTシャツを着てて、腕にはすごい生々しい注射痕がいっぱい残ってて、それで警察に通報されて。で、荷物をまとめて私は逃げようと思ったんだけど、そのときにちょうどガサが入って、そこで「任意で来てくれ」って言われて行ったんですけど、そこですぐ尿検査をして反応が出て2回目の逮捕ってなって。

次は一般の、長期の少年院に入って、本当は11カ月で出れるんですけど、私はそこに1年半いて。なんで1年半いたのかっていうと、順守事項っていうのがあってその違反をすごいしてて。少年院に入ってる人たち、生徒ですよ、生徒とけんかしてみたりとか、そういうのが結構続いて、それで出院が延びて。で、2回目は私、更生保護施設って所に入って、そこでちょっと1カ月ぐらい生活したんですけど、やっぱり施設で生活するといういろいろ不自由な面とかがいっぱいあって。でもそこは割と自由な施設で外出簿っていうのを書けば結構、自由に外出ができて。

その更生保護施設の入ってる人たちは結構、覚せい剤とかで捕まった人たちが多くて、その人たちと仲良くなっちゃって。「やりたくない？」って言われて断れなかったですよ。『やりたい』ってことを言って、で、私はその人と一緒に外出をして、その人の友達っていう人に会って。そこで、そのときはやらないで買って来たんですよ。買って帰って、自分の部屋に入って、これやらまた自分は少年院に入ることになっちゃうかと思ったんだけど、でも、その一緒に買った人は部屋のベランダでやってて、一緒にやろうよとかそういう誘惑に負けて、もういいやーと思ってやったんですね。ばれないだろうと思ってそのときはやったんですけど、まあ、すぐばれましたね。すぐばれて、通報されるって分かったから私はそこを飛び出して。

私が、地元が東京なんですけど東京に戻って。で、戻ったらやっぱり昔つるんでた仲間とかがいるんですね。自分はそれを目的に出たんですけど、いつも集まっていた場所に行くと、そしたら仲間がいっぱいてシンナーとか吸ってるんですね。吸ってて、久しぶりみたいな話をして、少年院、大変だったなーって話でいろいろ、最初は話してたんだけど、「出所祝いだ」って言われて、「ただであげる」って言われて、1回は断ったんですけど「ま、いいから、いいから」って言われて、自分はまたその誘惑に負けて使って。で、おかしくなって警察を呼ばれることになって。

警察呼ばれて、また「尿を出してください」って言わ

れて、そのときは本当に自分は、私も任意だってことが分かったから出さなかったんですね、「嫌だ、嫌だ」って言って、「出ない」って言ってずっとやってただけ。そしたら、強制、忘れちゃったんですけど、裁判所にそういう話が行って、強制的に取りましようってなって病院に連れてかれたんですね。病院に連れてかれて管を入れられるんですけど、管を入れてそこで尿を取っていうのをやって。まあ、それやられたら私はその場からも逃げれないし、もうしょうがないと思って出しましたね。出して、また反応が出て、家庭裁判所に送られて、そこから留置所に入って、その次の鑑別所に入れられて審判っていうのを受けるんですけど。

審判のときに、この子はもう2回、少年院に入ってるし、依存症ってそのときは言われましたね、依存症だから少年院に入れてもしょうがないんじゃないかって話が出て、そのとき私はよっしゃって思ったんですね。これで話がうまく行けば、少年院には入らなくて済むと思って。で、ダルクっていう話も出たんですけど、私は3回目捕まったときにはもうダルクって施設にはつながってて、ダルクに入れても全然、薬が止まなくなってるってそういう情報もいってて、だから最終的にもう1回少年院に入れて教育を受け直させましようって話になって。私はまた3回目、少年院に入ることになったんですね。

で、「3回目はもう医療少年院しかないんじゃないか」って言われて、分院みたいなものですね、医療少年院って所に送られて治療を受けるんですけど。3回目の少年院でさすがに私も嫌で、ずっと最初は逃亡することをたくらんで、朝礼のときに中庭っていう所に出るんですけど、そこから抜けて逃げようとしたりとかそういうのを最初の3カ月くらいはずっとやって。そういうことをしたら部屋から出してもらえなくなっちゃって、ずっと部屋で内省っていうのをやって。部屋の鍵も開けてくれないから、食器口っていうのがあるんですけど、食器口の前に先生が立って、そこで体育の授業を部屋の中でしたりとか面接をしたりとかしてたんですけど。それがまた3カ月、4カ月くらい続きましたね。

で、だいぶ落ち着いてきたしってことでまたみんなと同じ一般の生活になるんですけど、そのときに「このまま少年院を出したら、この子はまた覚せい剤に手を出さんじゃないか」って言われて、私は「もう絶対、覚せい剤なんかやらないです」ってずっと言ってただけで、やっぱりそれは通用しなくて。その医療少年院で自分は依存症だって診断をされて、少年院を出る条件としてダルクって施設に入るってなって、私はダルクを紹介してもらって。

私、本当につい最近、少年院から出てきたばかりで、

少年院出てすぐ、違う県のダルクに入所したんですけどそこでもうまくいかなくて、私、1カ月で逃亡して。で、そのときの施設長に高知を紹介してもらって高知に来たんですけど。

今は使わないで生活しているけど、でも実際、やっぱり使わないで生活するのがすごい大変で。自分は今まで使って紛らわしてきた感情とかそういうのがいっぱいあって、それにしらふで向き合わなければいけないってなるとやっぱりすごいしんどいんですね。やっぱり嫌なことは嫌だし、やりたくないことはやりたくないし。やっぱ何回も私、高知につながって帰ろうとしたんですけど、でもやっぱり今、座ってくれてる仲間たちが支えてくれて、「一緒に頑張ろう」って言ってくれて、私は今、ここにいろんですけど。

でも昨日、私、すごい薬の欲求が入って。なんで入ったのかなって考えてたんですけど、昨日はすごい嫌なことっていうかつらいことがあって、それと向き合うのがすごいしんどくともう嫌だ一と思って。どうせ自分が薬やめても、家族のことだったんですけど、家族はやっぱりそれを分かってくれないし、家族と話すると依存症っていうことを分かってないんですね、やっぱり。

なんで使っちゃうのかとか、自分が病気だということと言っても、「それは自分の意思の問題でしょ」とか言われるんですけど。でも、これは私の勝手な考えなんですけど、意思の問題じゃないと思うんですね、私は。意思が弱いから使っちゃうとかそういうのじゃないんじゃないのかなとか思うんですけど。でもやっぱりそういうのを分かってくれなくて、すごい今まで自分が作り上げてきたものとかを全部ぶち壊すっていうか、そういうのをしたくなって昨日はちょっと荒れたんですけど。

でも、それとうまく付き合っていかなきゃいけないんだっていうのを自分も分かっているから、昨日は取りあえずいろんな人に話していっぱい泣いて、早く寝て。でも、早く布団に入ってもやっぱりすごい考えて、結局、昨日寝れなかったんですけど。でも、取りあえずきょうまでは使わないでいれてるのが自分はすごくうれしいし、やっぱり一緒にやめてこうって回復の道を歩んでくれる仲間がいるってすごい心強くて。

私、少年院に入ったときに、少年院の先生に「薬物とかやっちゃう人は刑務所とか少年院に収容しないとその人たちは回復しない」っていうことを言われて、「そういう自助グループとかに行っても意味ない」っていうことを言われたんですね。そうなのかなって私、思ってたんですけど、今、私が思うのは、刑罰で薬がやめられるのかってことを思ったんですけど、でも私はそうは思わないんですね。確かに刑務所とかに入って、自分が依存症だってことを理解して、これから次に社会に出たと

きにどうやって生活してこうとか、どんな仕事しようとか、そういうことを考えるきっかけっていうか、そういうのにはすごいいいと思うんですけど。

でも、この病気で忘れる病だっって自分は思ってるんですよ。私は少年院にしか入ったことがないけれども、刑務所とかに長年入っていると、そういう使えない状況に立たされると、これは私の勝手な意見なんですけど、使いたいっていう気持ちも湧かなくなるし、出る頃にはもう私は大丈夫だろうっていうか、もう絶対使わないっていうか、治っちゃった病って自分は言ってるんですけど、もう自分は大丈夫だろうっていうそういう感じになるんですよ。だから、私の友達とかでも少年院に入っすぐに使っちゃう人とか結構いて、自分もそうだったんですけど、それはやっぱり忘れちゃうんですよ、使ったときに自分がどうだったとか、自分がしてきたこととかそういうのを忘れちゃって。出たときに忘れちゃってるからもう大丈夫っしょみたいになって、やっぱり使っちゃうんじゃないのかなって自分は思っって。

だから、薬物とか違法のものに手を出したらやっぱり捕まるんだけど、でもそれから回復してくためには、やっぱり自分はこういう自助グループとかそういうのが必要だと思っって。何がいいのかなって、私もうまく説明できないんですけど、やっぱり社会の中でいろいろ話して、矯正施設に収容されて社会と全く離れて生活してるんじゃないくて、やっぱり社会に出て地域のこういうのに参加して話したりとか、そういうのが自分には回復のすごい助けになって。だから、社会の中でこうやって回復してくのがいいのかなって自分は思っますねー。

私もよく治っちゃった病にかかるんですけど、でもやっぱり、いつも施設でミーティングっていうのをやってるんですけど、ミーティングで仲間が体験談とかもおろしてくれてるのを聞いて、自分もそうだったって思っ、あーっって思っ出していろいろ私は紙に書き出したりとかして1回振り返って。そういうの、書いとかなないとやっぱり忘れちゃうので、書いて絶対に自分がやったこととか、自分がどうだったとかそういうのを忘れないようにして、きょう1日で使わない日を今は続けています。だから、自分はこのミーティングとかがすごい大事だっっていうのが分かったから、これからちゃんとミーティングとかそういう自助グループから離れないで、仲間と離れないようにして回復していけたらいいなっと思っます。以上です。ありがとうございました。

【コンキチさん】

コンキチっていう名前は昆虫気遣いっていう意味です。自分でもう、私、気遣いだなっと思うぐらいに使っ壊れて、人として終わっったっっていう状況で使わない日

が始まったんですけど、そのとき私は33歳でした。覚せい剤を使っったのは20歳からです。だから13年ぐらい使っって、めちゃくちゃなことをやりました。借金もいっぱいあったし、家族からも巻き上げたし、友達からも巻き上げたし、体も売ったし。まあ、借金取りからは逃げ回っって、男を使っってやりたい放題やりましたけど、その結果、人間として終わっって妄想の中でしか生きられなくて。私、本当は違うんだぞみたいなの、そういう妄想の中でしか生きられなくなっって、人とまともに会話ができないっっていう。何日も寝てないからがりがりに瘦せて、焦点も合わなくなっってっっていう。ま、風呂に入ったとしても、覚せい剤の作用で汗びっしょりですんごい臭くっって。その当時は自分の内臓が腐っってる感覚がありました。実際に内臓とかもぼろぼろで大変だったんですけど、ダルクに入寮してからきょうまで5年半、使わないで生きていられてます。

自分の生い立ちを話しますと、福岡で生まれました。家族は多分、普通の家族だったと思っます。父と母がいて、父のほうの祖母と祖父がいて、自分はその長女で妹と弟がいるっっていう、そういう家族だったんですけど、かわいがられました。ただ、自分が小学生になった頃におじいちゃんががんになって、自宅で療養するっということになったんですけど、がんになったおじいちゃんはずごく神経質になって、「子どもの声がうるさい」っって、「近寄るな」っって言うんですね。ほいで、「おじいちゃん、お大事にね」っって言っってプレゼントを渡すと、「こんなもんいるか」っって投げ返されるっっていう。家族全体がおじいちゃんの機嫌を損なわないように、そろりそろりと生活するようなそういう時期がありました。

それと、嫁、しゅうとめ問題があっって、おばあちゃんとお母さんがあんまりうまくいっなくて、おばあちゃんは私に母親の愚痴を言う、母親はあんたをちゃんと育てるのは私だからっって、おばあちゃんのそばに行かないでねっって、そういう空気を讀んだのかよく分かんないですけど、ちっちゃかった私は、私がいい子に育てばいいんだっって、そういうふうになっ自然に思うようになりました。だから、一生懸命やりました。

中学校で常に1番を取りました。でも、中1の今時期ぐらいから夜遊びが始まっって、夜抜け出して朝方帰るっっていう生活が始まっって、まあ、知らない男の人とドライブに行っってセックスして帰るっっていう日々が始まったんですけど。ま、それでも点数取っればなんにも言われないっっていう。当時はなんにも言われないんで。自分は同級生に魅力を感じずに、年上のよく分かんないけど大人のひとと渡り合ってる自分っっていうのが気持ち良くてずっと続けてました。あのときは薬も使わずに徹夜ができたんですけど、なぜだろうなーっと思っますけれど。

ま、そういう二重生活をして、高校もいいところ行って大学も行きました。東京の大学に行って一人暮らしをするんですけど、自分はそこですみずくんですね。まず生活ができない、ご飯作って片付けて、洗濯して掃除してっていうのができないんですよ。ワンルームの狭い部屋で布団をどこに片付けたいかわからないとか、料理するときに鍋をどこに置きたいかわからないとか、すごい困ったがたぶん出たんですけど。でも、周りを見ると普通にやってみないんで、私も鍵掛けて外に出ればなんでもないような顔をして行っていました。でも本当はすごく困ってました。で、そういうのを見られたくないから友達はほとんどいませんでした。部屋の中はぐっちゃぐちゃでした。

相変わらず夜になると出掛けて行って、ナンパされに行っちゃって、朝方帰って来るっていうことをやってました。で、当時はテレクラだったんですけど、そうやって知り合った男の人が持ってたのが覚せい剤でした。自分はどこを向いても大変だったんで、家の中にいても大変、居心地が悪いっていうかだし、大学の中でも居場所がないっていうか。で、面白そうだしやってみるか、やりたいって。まあ、もともとそういうのをやりたいって思ってたのですぐに飛び付きました。時代はマジックマッシュルームが合法だった時代で、結構、面白そうなものには飛び付きたかったかなーとは思いますが。

まあ、その辺りで、自分は最初からすごいひどい使い方だったんですけど、というよりは、大学に入学して最初に飲んだお酒がものすごくひどい飲み方で。飲み放題で一番最後まで飲んでるのが私、で、吐いても吐いてもまだ飲み続けて朝方まで2軒、3軒と行くのが私、立ってないんだけど、ぐだぐだになってるんだけどまだ行けるって言って飲んでるのが私、先輩に暴言吐いたりたたいたり蹴ったりしてるのが私。で、最初の頃はこの酒癖のひどさは若いからだって、飲み慣れてないからだって思ったんですね。ほどほどに飲めばとか大人になったらとか就職したらとか思ってたんですけど全く直らなくて、酒を飲んだらひどく暴れるっていう自分が出来上がっていきました。

酒癖が悪いのは薬もひどいっていうそのとおりに、自分は薬を使ったらとことんまで使うし、売人に嫌われるくらいに使ってました。だから、薬をくれるルートがどんどんなくなっていくんですね。で、こっちも必死だからどんどんこまででも行ったら、幾らでも出したっていうか、そんな感じでした。

そんな十何年があって、途中で捕まえてもらったんですね。自首して捕まえてもらって、留置所に入ったこともありました。27歳のときでした。これでやめられるっ

て思ったんですけど。両親に一番最初に言ったのは「いつ面会に来てくれるの」って。ごめんなさいじゃないんですよ。迷惑掛けてごめんなさいじゃなくて、「次、いつ来てくれるの」って、「幾ら入れてくれるの」って、全然、懲りてなかった。ていうのは初犯っていうか、初めて捕まったら必ず執行猶予だっていうことが分かっているから全然こたえてなくて。これぐらいのパフォーマンス見せたら家族も許してくれるだろうとか、そういう考えとかも確かにあって。心の中では使わなくてほっとしたっていう部分もあったんですけど、もう一方ではずる賢い自分がいて、これでほとぼり冷めたらとか、家族の対応が優しくなればいいのか、そういうことを考えてましたね。

結局、執行猶予をもらって、自分は昼の仕事を始めて、アルバイトをして、初めてのバイト料でまた薬買って使いましたね。仕事をするのに都合が良かったんですね、仕事行きますって言って薬使いに行っちゃって、カモフラージュするためにビールを飲んで帰って来るっていう、酔っぱらったって言ってすぐ寝るっていう。そういう生活をしていましたが、どんどん薬が止まらなくなって自宅を、注射失敗するからどんどん血しぶきが飛んで血だらけにして、お風呂に入ったら2時間も3時間も4時間も出てこないとかそういう状況になって、とうとう家から追い出されました。30歳のときです。

30歳のときに、NAっていう薬物依存症の自助グループ、その時間だけ集まってミーティングをするっていう集まりを知って、そこに参加するようになりました。で、やっぱり思ったのは、これでなんとかしてもらえと思ったんですね。自分がなんとかしようとか、自分が変わる必要があるとか全く思わなくて、これで誰かに何かしてもらえってしか多分、思ってたんですけど。で、行き始めましたが全く止まらず。一応気を付けるんです。みんな、薬使わないっていう人たちだから、自分も我慢して使わないぞってやるんだけど、そんな我慢なんか1カ月持たないですよ。で、1カ月も持たないんだったらきょう中に使ったほうがまだいいんじゃないかって、傷は浅いぞと思ってまた使うわけです。どんどん使っちゃって、結局33になるまで止まりませんでした。

本当に何もなくなって、行く所もなくなって、自分の考えた方法がどれも全部駄目で。縫い物してみた、引っ越しもしてみましたし、自殺も試してみましたし、全部駄目だったんですね。で、入りたくなかったダルクに助けを求めることにしました。自分は助かる方法があるということを知ってから3年かかったんですけど。もっと言えば、27で自首したときから薬をやめる方法はないかってひっそりと悩んで探して、たどり着くのはダルクっていう言葉しかなくて。ダルクは嫌だってずっと思っ

たんですけど、通算すると6年ぐらいかかったんですけど、それでも自分はラッキーだと思います、助かったんです。

ダルクに來た日から人間らしい生活が始まりました。朝起きて夜寝ること、ご飯をしっかりと食べること、運動すること、みんなとおしゃべりすること、人間らしい生活を何年ぶり、すっかり忘れていました。

私が薬物依存症になったのは多分、13歳の夜、出歩くようになってからだと思います。本当に使ったのは20歳ですけど、その前に依存症としての行動はもう完了してたっていうか。まず二重生活をする、こっちの顔と別の顔と使い分けて都合のいいとこだけつまんでっていうことはずっとやってきたし、目の前のことをさげすむっていうか軽く見てっていうかそういうふうにしてたですね。だからいつもつままないって思ってたし、何か他のものが欲しいってずっと思っていました。

自分の場合は多分、特性だと思うんですけど、ちょっとしたことが変わるとすごく難しくなったりとかして、それが難しいっていうふうに言えなかったんですね。困ってるっていうことを言えずにずっといたような気がするんですけど、もしかして学校で気付いてもらってたら違ったかもしれないっていうふうには思うんですけど、何をどういうふうにしたら、分かんないんですけど、ちょっとつまずくっていうことが本当にちっちゃなことなんで、他の大きな問題からしたらすごく見えづらいかもしれないんですけど、そういうところが、ちょっとした変化に弱いっていう、多分そういうタイプなんだと思うんですけど。それが学校生活の間に自分で気付いたりとか、指摘してもらったりとかしていたら、もっと目の前の現実に取り組みやすかったのかもしれないなと思います。

同級生としゃべることが苦手でした。だから本の世界とか。インターネットが普及したのが私、大学生ぐらいのときだと思うので分かんないんですけど、もし私が中学生のときにインターネットがあったら多分どっぷりはまったと思います。それは別の世界に行けるから、目の前のことに対処しなくて済むんで多分はまったと思うんですけど。目の前のことを処理するのが苦手っていうのが、かなりちっちゃい頃のほうが強かったんじゃないかなと思うんですけど。自分の場合は特に家庭も問題ないとか、成績は良いほうだとか、そういうことで生活するスキルとか生き方を教わるっていうことを今まで知らずに来たんじゃないかなと思います。だから友達のつくり方も知らないし、どうやって働くかっていうこともリアルに感じたことがなくて。社会に出たらっていうその社会が全くイメージできなかったりとかしたんですね。

で、実際に仕事をしましようっていうときの選択肢に、

アルバイトとかコンビニとかそういうことが視野に入らなかったりとかして、働くっていう機会もつかみ取れなかったような気がするんですね。で、本当、まともに働いたことが多分ありません、もう結構いい年なんですけど。

ダルクで生活の立て直しをさせてもらって、今、働きの口が見つかりました。しらふで働くっていうのは初めてです。で、あんまり心配もしてないというか、駄目だったらやり直せばいいっていうふうを考えてて、失敗してもやり直せるっていうことを自分はダルクで初めて教わって。今までは失敗したら全部終わりだって思ってたんですけど、失敗したら立ち上がればいいって、失敗したらやり直せばいい、失敗したら他のことを探せばいいって、そういうふうに教えてもらって、今、初めて働くっていうことが駄目だったら何かを変えてまたチャレンジしたいなと思うし、現実を生きてっていうことに取り組んでいきたいなっていうふうに思っています。

仲間とたわいもないことを話して笑って、一緒にご飯食べておいしいねって言って、夜になったらおやすみって言って、朝はおはようって、調子どうって言うこと、それが自分の足らなかったことだったんだなっていうふうに気付かされます。仲間は優しいです。しんどかったりつらかったら寄り添ってくれます、心の荷物も持ってくれます、できないことを責めたりしません。そういう中で、自分はやっぱり生かされてるんだなっていう感じを与えてもらっています。だから、私もできることがあったらできる限りで役に立ちたいなっていうふうにも思っています。仲間とはぐれないようにしていきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

【アヤさん】

すみません。ここで話すの、さっきというか突然決まって、今もちょっと頭真っ白なんですけど。結果っていうか、今思ってることから話させてもらおう、今は安心してこの場所で生きていいなって思ってます。小さいときからすごく自分を否定する気持ちっていうか、どこにも居場所がないっていうふうになって。家族、家庭は結構、普通の家庭だったと思うんですけど、小さいときに私と、弟がいるんですけど、弟がアトピーになって母親がすごい自分を責めたんですね。で、私と弟の体がアトピーになったのは母親である自分のせいだというふうに思ったみたいで宗教に行きました。

でもすごく突然のことで、幼稚園ぐらいだったと思うんですけど、自然の村みたいな、牛とか鶏とかがいるようなそういう所で、毎朝、牛乳に生卵を入れて飲めみたいな……。え、みたいな、そんな感じで突然がらっと変わったんですね、環境が。でも、小さかったのも訳も分

かんないし、自分がアトピーであることもそんな、ま、不自由は多分してたと思うんですけどあんまり分かんなかったですね。だからすごく怖かったですね。怖くて、突然、大人の方たちがいる教室みたいなとこに連れて行かれて、先生って言ったらお母さんと呼べみたいな。え、みたいな、分からん事実すごいはてながたくさん出て。でもやっぱり自分は無力で何も、小さかったのもそこで生活を送るしかなかったですね。で、とにかく寂しかった。寂しかったなっていうふうに思うんですね。

で、小さかったのでおねしょとかしても誰にもやっぱり言えなかったりとか。弟はすごく小さかったのも週末だけは両親と暮らしたりしてて、なんで自分だけは両親といれないのかなっていうふうには思っていました。まあ、でも、言っても無駄やっていうことを多分そのときから思っていて、すごく大人の顔をうかがうような子どもだったと思います。それはすごく生きてく上で武器にもなったし、自分を守るものにもなったんですけど、なんか身に染みたっていうか、周りの顔を伺うっていうのはすごくその頃からあったように思います。

これも後から聞いた話なんですけど、やっぱりそういう宗教のとはは良くないっていうことで、父親のおじいちゃんとおばあちゃんが働き掛けてまた普通の、私、大阪なんですけど、大阪の学校に。中途半端な時期でしたね、小学校の。中途半端な時期から普通の小学校に行くようになったと思います。すみません、ちょっと頭が真っ白なんですけど。その頃は別に自分が思う問題みたいなのは特になかったというか。顔色うかがうってさっき言うたんですけど、でも分かっているとまた別なんです。うかがうんだけど気持ちはくみ取れてないみたいな、そういう人なんです。なので、ある日、パーマをかけてめっちゃめっちゃ怒られたんです、先生から、なにしてんねんみたいな。怒られて、でも分かんなくて、え、何が駄目なんですかみたいなそういう感じで、伺ってる割にあんま分かってないような自分だったなっていうのが思ってます。

中学校のときに、おじいちゃんが先にネットの話をしてたんですけど、社会を知るためにって言ってパソコンを弟に1台、自分に1台、買い与えてくれました。速攻、出会い系みたいな、こんなとこで言うのもあれなんですけど。そのときはとにかく自分が大嫌いで、早く大人になりたかったですね。とにかく背伸びして、背低いんですけど、すごい高いヒールを履いて、大人の女性の人が着るようなすごいカッコいいコートを着て、髪の毛をなんとかしてとか、大人の女性にすごい憧れてましたね。だから今思えば、その当時の自分が大嫌いだったんだろうなと思います。自分のままでいいとか、ありのままでもいいとか一切思えなかったですね。なんで、自分

のことが大嫌いでとにかく家の前のコンビニに行くにも化粧したし、とにかくすっぴんも嫌い、何もかも嫌いだったんですね。そういう中でネットとかすることでちょっと大人になったような、そんな気持ちを味わってたように思います。

そのときは、当時、合法ドラッグが、危険ドラッグとかじゃなくて、本当に多分、出だしの頃だと思うんですけど、そういうのがネットで買えました。ネットで買ったりしてたんですけど、でもすっごい気分悪くなるんですよ。かといってお酒もあんま飲めないんで、すぐに吐いてしまって飲めなくて、でもなんか現実逃避したいみたいなそういう気持ちがありました。でも、どこで買いに行っていけば分かんないんで、アメリカ村とかに行って、立ってるフライヤーを配ってる人に「薬ありますか」って言って、声を掛けて薬を買ったりとかしてたように思います。

そんなときに、ちょっと話、前後するんですけど、母親の日記を盗み見てたんですね。さらっとひどいこと言ってるんですけど、そういうことをしてたんですけど、そしたら、母親のほうのおじいちゃんの会社がお金貸したみたいなこと書いてあって、何百万貸しましたみたいな、えー、みたいになってしまっ。そこでやっぱり自分の思考回路、おかしいっていうか、あ、じゃあ、自分でお金稼がないといけないうって思ってたんですね。自分のお小遣いを自分で面倒見なきゃいけない、じゃ、体売ろうみたいな、そういうすっごい飛躍があっ。

で、なんで体売ろうと思ったっていうのは、自分に価値がないって思ってるので、自分には、当時、若かったので、体しかないわみたいな、そういうふうになってました。自分にはそれ以外、価値がない。でも、そういうふうになり込んでそういうことをしてたように思います。そんなときに、覚せい剤とかマリファナとかそういうものに会ったと思うんですけど、痩せたかったっていうのもあったりして、自分にはこの薬はすごくちょうだいって思って、これしかないわっていうふうになって使ってたんですけど。友達には「買うのをやめたほうがいい」と、「あなたは絶対はまるから買わんほうがいいよ」というふうに言われたりして、でもなんとしても手に入れるみたいなことをやってたら、速攻、捕まって。ミナミの繁華街を昼間、遊んでたら補導されて捕まりました。

ま、そのときにうちの両親がダルクのほうに相談しに行き、ダルクに行くのであれば試験観察でいいよみたいなことで、試験観察で出てきました。まだ当時、17歳で、あんまり薬もそんな使ったことなかったしっていう思いがすっごい強くて、ダルクにいる人たちを見て、あ、この人たちほどひどくないなっていうふうには、自分はそ

んなにひどい薬中じゃないっていうふうにしてその当時は思いました。でも、すごいみんな笑ってるんですよ。それがすごく新鮮で、夜の世界とかって、私のあくまでも偏見なんですけど、ずっと身を置いてるとうそが普通になるんですね。うそ言うし、うそ言われるから、じゃ、本当のことを言わないし。だまされることが当たり前になってるので、言っても意味ない。でも本当はすごい寂しいし、泣きたいし、こんなとこ嫌やし、なんでこんなことしてんねやろみたいな、でも顔では笑顔で笑ってみたい、そのギャップがとにかくすごくしんどかったですね。でもそのときは分かんなかった、それが自分にそこしか居場所はないやというふうに。ま、そこが居心地が良かった、うそで本音を言わずに生きていくのがすごく、その当時は楽だったように思います。

で、ダルクにつながって1年ぐらい通いましたね。高校の友達と一緒に薬を使ってたので、自主退学して。だから通信の高校に行ったりして、そのときも薬は使いたかったですね。ずっと使いたかったですね、でも言えなかった。薬、使いたかったら使ったらいいっていうのがあるんですね、ダルク、正直に言うっていうのがすごくあるんですけど。普通、怒られるじゃないですか、何言うてんやーとか、使いたいとか言ったら体大事にせなアカンとか、それが、でも普通なんですよ。普通なんですけど、使ってる当事者からしたら、すごい否認の病気って言われてて、依存症は、自分も依存症なのですぐ否定したがるんですね。分かっているわーとか毒を吐いてしまうっていうのはありますね。

で、まあ、高校に、取りあえず卒業して、そういうのが好きだったのでヘアメイクの学校に行きました。そのときもまた隠れてキャバクラとかそういうことをしてたように思っていて、でも取りあえず本命の覚せい剤は使ってなかったのが大丈夫かなって思っていました。高校卒業して、ヘアメイクの学校に行って、美容師の学校をさらに受けるんですけど、その美容師の学校のときに、2年生だったんですけど、1年目ぐらいまでは結構、頑張ってたんですけど、2年目ぐらいになってとにかく努力が嫌なんです。こんなこと言うの、本当、最低なんですけど、努力がすごく嫌で、早く結果が欲しいわけなんです。なので、薬は最高だったんですね。

普通の一般的な方とかって毎日こつこつ練習して、好きな時間を我慢して努力して、でも結果出ーへんくててもまた努力して、たまに休んで努力して、そういうことが普通にできるんですけどできないんですよ。すぐに努力なしで結果が欲しいから、そううまく行くわけなんかももちろんなくて。だから口では大きいことを言っても、余裕やわとか言うていきって、でも実際にウィックでするんですけどもうぐちゃぐちゃなわけですね。でもやっ

ぱりみんな、やってる人はきれいに仕上がってて。でも自分はいきってるから、その差がもう受け入れられないんですね。自分が言ってる理想と現実が、そのギャップが毎日続いて、かといっていきってる自分を直す努力もせーへんし練習もするわけでもない、だからどんどんアンバランスになってったように思います。精神状態がすごく不安定な状態になっていて、そんなときに薬やなって思い出したんですね。あ、自分には薬があったっていうふうには思いました。

で、すぐに使いましたね。それまで4年、取りあえずやめてはいたんですけど、全然関係なかったですね。自分が覚せい剤を使って、また薬物の中心生活になるのに本当に転がり落ちるようになっていきました。でも、やめたい気持ちと使いたい気持ちがすごく闘ってるみたいな、そういう気持ちでした。自分の中では闘ってるからいいんですけど、周りにはどんどん時間がたっていくんですね。環境もそうだし、関係もそうだし、いろんなことが変わっていく、そういう変化に全然付いて行けなくなりました。一人、取り残されてるんですけど、でも分かんない、自分は覚せい剤と闘ってるから全然分かんないんですけど、でも周りはずーっと時間が過ぎていってるんですね。

だからどんどん、学校もそのうち気付いたらやめてました。やめてましたっていうか、もう自主退学をしたほうがいいのかというふうに勧められて、でもそれも夢の中っていうか現実に起きてるように思えないぐらいとんとんとんって遠目で見てるような感じで過ぎてったように思います。だからちょっと記憶がそこら辺あいまいなんですけど、おかしい行動はたくさんしたし。部屋を借りて住ませてもらってたんですけど、ここを片付けて、そして途中でこっちに行ったらもうこっちのことが気になっちゃって、次またこっち気になってっていう感じで、部屋がどんどんごみ屋敷みたいになってしまっ、もう訳分かんない生活でした。8畳のワンルームにバス、トイレ別だったんですけど、その8畳の部屋の扉の向こうに行けないんですよ。おかしいですね。だからトイレとお風呂と玄関のところで暮らしてるって、ちょっと訳分かんない生活をしてました。でも、それを本当にまじめにやってるっていうか、今でこそ本当に仲間は笑ってくれるんですけど、本当に笑えるんですけど、その当時はそれを本気でやってしまってるので頭がおかしくなりました。

でも、もう心の中では自助グループしかないなって、自分の薬物を止め続けるためには自助グループしかないっていうのは思っていましたけど、なかなか足が進まないことが続いたんですけど。もうにっちもさっちももちろんいなくなってしまうと、お金も底を突いたりとか

いろんなことが重なってまたダルクに戻ってきたんですけど。でも、そこからまたやめれないというか、ダルクにつながってももうとにかく使いたいんですよね。使いたくって、でもやめたいんですけど使いたいみたいな、本当にすごいそのせめぎ合いがあって。

で、仲間の人を巻き込んで薬を調達してもらったりとか、精神病院に入って、ま、4回ぐらい入ったんですけど、20代の半ばぐらいは2回ぐらい誕生日を精神病院で迎えたんですけど何してんねやろうなと思うわけですね、ほんまに嫌やと。もうやめたいのになんでって思ってるのに、また出たら、精神病院の中で薬を使ってるような人の連絡先を握り締めて出てくるっていう。だから本当に何をやってんのかなって、自分で訳が分からないんですけど、やめたいのになんでやめられへんのやろう、本当につらかったですね。

でも、開ってるから駄目だったんですね。薬を使いたい気持ちと闘い続けたから闘いから降りられないみたいなことが起こってたんやなっていうのを今は思います。自分はもう薬物依存症やということをすごく、一生治らない病気なんですけど、薬を使いたくなったらきょうの自分は闘いません。ミーティングで言ったりとか仲間と言ったりとか、そのままの自分でおるっていうか、そういうことを思いますね。でもそのときは分からなくて、とにかくそういうことを続けてました。

ま、大阪でも本当にいろいろあって、今、薬をやめて7年目になるんですけど、大阪ダルクから高知ダルクを行き来したりして、しらふになって薬をやめても自分自身はあんま変わらないんですね。当たり前なんですけど、依存症であることも変わらないし、私っていう人間もちろん、芯の部分っていうか本質的なところはあんまり変わらんなくて、やっぱりすぐに否認したくなっちゃったりとか、逃げたくなっちゃったりとか、もう嫌とか、ミーティングほんま嫌やわとかすぐ思うし、愚痴もめっちゃめっちゃ言うんですけど、でもなんかそのままでいいかなっていうのは思えるようになってきて。それは高知での生活だったとか。

大阪でも結局うまくやれなかったんですね。働かせてもらったんですけど、飲食店で、でもすぐにてんぐになる病気とか、自分一人でやってるって思い込むこととか、自分で思ってるだけやたらいいんですけど周り、振りまけて、私一人がやってるやんかーってね。そんな人間、うまくいくわけないんですね。でも、そのときはやっぱり分かんないからやっちゃうんですね。でもやることで気付くこともあって、大阪でそういうふうになんか人傷付けたとか、すごい嫌な思いをさせてしまったんですね、で、自分も本当にしんどかったし孤独やったし、どうしていいか分かんなかったし。でも、もうちょっと離れて高知

で2年ぐらい生活させてもらってるんですけど、その時期があったので今はすごい日々の感謝とか、ありがたいっていう気持ちですごい大事やって気付かせてもらったりとか今はしてます。

で、すぐにちょっと後ろを引っ張られたりとか、前のめりになったりとかそういうことはあるんですけど、ありのままでいいっていうことを今は思ったりとか、そういうふうに分の弱いところとか格好悪いところ、本当はいきってるか、いけない自分とかそういうのをしやーないな一みたいな、そういう自分おるな一って思ったらすごい結構、自分を受け入れつつ周りとか調和してみたいなそういうイメージがあって。人にば一って言ってるときは自分のこともすごい否定的なんですけど、自分もそういう部分あるやんって思ったら結構、周りにも優しくなったりできるもんなんやな一っていうのは最近。まあ、そうじゃないときもあるんですけど、人間なんですね。でも、そういうことをダルクで教えてもらって、日々、今も勉強中なんですけどそういうことを思っています。ちょっとどう終わっていいか分かんなくなったんですけど、ありがとうございました。

Ⅲ. 2019年5月24日（金）のゲストスピーチ

【ミレイさん】

皆さん、こんにちは。初めまして。依存症のミレイです。そうですね、きょうは初めての高知大学ということでここまでダルクから車で来ました。むっちゃ緊張してますけど、すみません、言葉使いがちょっとあれなんですけど。

私は薬物っていうか、もともと京都にいて、京都マックさんっていう施設でいてたんですけど、その施設入ったときは通所してまして、自宅から通ってましたね。2年までっていう契約だったんで、ぎりぎり2年まで通って、途中から、ちょっと、私が依存がひどくなって、もともと、私は依存を四つ持ってるんですけど、そのアディクションがひどくなっちゃって、母親が手を出すようになったんで、これはいかんてなって。

で、京都のグループホームのほうに移動っていうか、家を出て行ったんですけど。それから8カ月間は京都のグループホームでやってたんですけど、やっぱり、うまいこといかなかったですね。最初の3カ月が、最初入って3日で京都の施設長にきれて、もう、私、無理ですって話をしたんですけど、それやったらあんた、もう、お母さん所にさっさと帰りって言われて、3日で持たへんかったっていうことが、そう思われたらくやしきって、私は帰りませんってきれたんですけど、帰りませんって言って、それからしばらく過ごしてたんですけど。

私は最初はグループハウスは夢の世界やと思ってたんですね。女性寮なわけですけど、夢の世界やと思って。家族以外の知らない人と暮らせるのって最高やと思ってたんですけど、現実はそのでもなくてですね、やっぱりしんどかったですね。みんな、人それぞれ価値観も違うし、考え方も違うし、それがいい捉え方に見えるときもあるし、マイナスになるときもあって、今までやってら基準は自分だったけど、自分の考えで自分がこう思ったことが他の人からしたら違うって。なんで違うんやろって。まあ、人それぞれやからっていうことを頭には入れてたんやけど、でも、やっぱり違うって、こんなはずじゃなかったみたいな。だから、いい面もあればそんなんちよつと無理やわ、うん、この人の考え付いていけへんわっていうときもあったんで、いろんな意味で高知に来たんですね。

男性との問題もありましたし、こっそり隠れて、男性と会ったこともあったし。いろんな意味で一人暮らしをしたっていう希望を京都で出したんですけども、母親も施設長も反対してて、一人暮らしにするか、他府県で頑張るか、京都で立て直してやっていくかって話が出たときに、やっぱり一人暮らしは反対って2人は言ってたし、私はいいと思ってたんですけど、今やったら危ないってみんな言うし。そうなったら、もう、二つしか選択肢がなくて、他府県で頑張るか、京都で立て直すかってなって。

自分がハウスに入って、ハウスに入りながらも男性と会ったりとか、スリップをしたりとかですね。スリップってアディクションを使うっていうことなんですけど、そういう生活をして、自分が居づらくなってしまった。自分が居づらいことをした。その繰り返しをアディクション使ったの、ハウス入って7,8回やってたんですね。もう、それこそ1回手を出したら100回やっても足りひんぐらいやって施設長にも言われてて、確かにその通りやなと思って。でも、最初の1回やると止まなくなっちゃうんですね。

それでいろんな意味で高知に来て、忘れもしない今年の2月14日のバレンタインデーに高知に来たんですけども、それから3カ月ちよつとが経ちまして、私はね、もともと一番最初に、いまだに疑問に思うことがあるんですよ。なぜ私はマックではなく、ダルクなのかってあってですね。たまになんで私、ダルクに来てるんやろ、マックじゃなくて。いろんな依存症を抱えた人が行く人がマックで、薬物専門がダルクやろって思ってた部分があって、でも、私、アルコールも持ってるんですけど、アルコールも薬物だってなんかの本に書いてあったんですよ。最近、私もそれ読んで、そっかって思ったんですね。

私は1番最初に発症したのが19歳のときに摂食障害になりまして、最初は拒食から始まって、4,5年はもう飲み物だけとか。1回だけ、ダイエット食品みたいな、ダイエット専門のこんにやくラーメンみたいな食べてたことがあったんですけど、おいしくなかったですね。おいしくなくて、そういうダイエット食品は信用にならんってなってやめて。やっぱり食べるのが怖くて、もともと、私、食べることが大好きなんで、でも、やっぱり悩んでたんですよ。学生時代にバイトして、ストレスなのか何なのか分かんないですけど、取りあえず、食べまくってたんですよ。学生時代ってこともあって、関係あんのか分かんないですけど、取りあえず、太っちゃって、それが嫌で。誰かに太ってるねって言われたわけでもないし、誰かに痩せなさいって言われたわけではなかったんですよ。自分がすごい太ってしまったと思って、これはいかんと思って、ダイエットを始めた。

2カ月で10キロ痩せたんですよ。単純に。それがうれしくなったんですけど、そうなったら、もっと痩せたいと思ってしまって、もう、自分の理想の体重以下になりたいみたいな、もっともってなって。やっぱり女性やと大抵の人はきっと痩せたいとか、きれいになりたいとか、美しくなりたいとか、そういうの持っては思うんですけど、その程度がおつき過ぎたんですよ。きつとね。それを度を越えたっていうか。みんな持ってると思うんですよ、女性ならそういう気持ちを。でも、きょうは食べ過ぎたから、明日からちよつと控え目にしようとかじゃなくて、わ、食べてしまった、どうしようみたいな。最初は食べてなかった。飲み物だけでいった。でも、途中は偏食になってて、特大パフェ食べた代わりに晩御飯食べへんとかね。偏食が始まってですね。でも、めっちゃ甘いもん好きやし、甘いもん食べて満たして、晩御飯食べないとか。1食をめちゃくちゃ偏食でパフェ系とか、甘いとか、生クリームたっぷりとかそういう物を1食食べて、もうそれ以降は食べないとか。そういうことをしてて、体がもうおかしくなっちゃって、悲鳴を上げてですね。

食べ物のコーナーを避けて通ったりしてたんですけど、嫌でもやっぱり食べ物が見えてしまって、コーナーに行くと、その日はおなかすき過ぎて、よく分からない状態になっちゃって、その日、5000円ぐらい買いましたね。食べ物だけで。全部一気に食べちゃって、自分が理想の体重以上になってたゆえに、体重計ったら2キロ増えて、ショックを受けて、また食べてしまったって。これ、どうしようって、この食欲をどうにかしたいって、

でも、太るのは嫌だと思って、単純に考えたのが過食嘔吐っていう方法だったんですけど。大変すごい、今、考えたら、もったいない話なんですよ。買った食べ物、

嘔吐するわけやから、その払ったお金が台無しみたいな。なんですけど、今やったら分かるんですよ。でも、そのときはそう思わないんですよ。体形のほうが強いから。自分がこういう体形になりたいっていうことのほうが強いから。

でも、現実はお金がかかって、体もぼろぼろになって。それは嘔吐するわけやから、体に無理がかかって、涙も出るし、せきも出るし。それでも泣きながらも嘔吐してる自分がいてですね。苦しくなってきた、それはそれで、また、それが10年以上続いたんですよ。それが困ってしまって、お金がないと、働ける状態でもない、でも、お金がないと過食嘔吐ができない。過食すんなよちゅう話なんですけど、そういうことじゃなくて、めっちゃめっちゃ食べないと気が済まなかったんですよ。度を越えないと気が済まなかったっていうか。

それで困っちゃって、今度は窃盗、クレプトマニアっていうんですけど、最近、なんかニュースでも窃盗症って言ってたニュースがあったと思うんですけど、それをし出したんですよ。今、すごい自分でもクレプトマニアとか、窃盗症、万引き、万引きを今、言おうか迷ったんですけど、もう言ってしまうかと思って、あれなんですけど、窃盗し始めまして、高い化粧品とか盗んで、ネットオークションで売るわけですよ。それ、お金にしていますね。お金にして振り込まれるんですよ。またそれがうれしくてね。そのお金で過食嘔吐ができると思って、それでよくないけどそういうお金の稼ぎ方をしましたね。

それと同時にずっと過食嘔吐するのはしんどかったんで、夜はお酒ということでアルコール依存症にもなりまして。お酒も結局、戻すんですけど、でも、いい感じで気持ちよくなったりしまして、たまらないですよ。普通、飲んでないと飢餓感っていうモンスターが止まらないんですよ。思い切り食べても嘔吐してるから体に物入ってないんですよ。で、またおなかがすいて、おなかがすいてを越えて飢餓感になって、どうしよう、また襲ってきたかと思って。だから、普通にご飯食べたら、数時間はきつと、3時間とかやったら普通になんも食べなくてもちょっと甘いもん食べて終わろうとか、ちょっとコーヒー飲んで終わろうとか、そういう感覚なんだろうけど、もう1時間も持たないんですよ。戻してからは。すぐ飢餓感がやってくるんで、そういう生活にもしんどくなってきた、それでもうお酒に頼るようになって、窃盗もしながらお酒飲んでみたいな、そういう生活送って、自分が嫌になったんですよ。この自分、嫌やって。

それで病院に通って、今は高知なんですけど、京都の病院で治療したんですけど、ミーティングとか、女性同士が集まる摂食障害のミーティング場にも参加し

たんですけど、私、どうも、今、前は特にそうでしたね。今も若干持ってますけど、女性が苦手ですね。女性ばかりが集まる、当たり前なんですけどね。男性が入ることはまあないので、女性ばかり集まってミーティングをするんですけど、障害の、それが自分に合わなくて、1カ月でやめたんですよ。やめて、今度は個人的にカウンセリングをしてもらうことになって。その1回のカウンセリングに保険きかないんで3000円かかるんですけど、その3000円あったら過食嘔吐できるやんって思って、いつか行ってなかったときもあったんですけど、取りあえず、そういうカウンセリングを受けて。

窃盗症というか、そういうのでとうとう捕まっちゃってますね。初犯だったんで岡山刑務所のほうに1年半いてたんですけど、それから出てきて、世の中に出てですね。それからかな。多分、30になってるかなってないくらいなんですけど、働かなきゃいけないと、お金もない。刑務所の中で工場働いてたけど、世の中に出てるときお金はもらえてないので、限られてるから。それで職を探して、古着屋さんで採用された。ハローワークに毎日行ってましたね。雨の日も風の日も晴れの日も、自転車でハローワークまで行って、仕事ありますか、仕事ありますか行って行って、そういう努力をしたのか分からないんですけど、いい仕事ありますよ、こういう仕事ありますよってハローワークの人が紹介してくれた所が古着屋さんだったんですよ。

障害者枠で行ったんですけど、実習を1週間ぐらいして、それで採用されたんで働き出して。最初は良かったんですけど、ちょっとお店でいろいろあって、お客さんにはなんもしてないんですけど、店長ともめたりとかしまして、もう自分がここは働かなきゃいけないっていう思いと、辞めたいっていう気持ちがあって、それでも働いていた自分がいて。

今、考えたらさっさと辞めときゃよかったなと思ったんですけど、頑張り過ぎちゃったんですね。辞めて、それが統合失調症っていう病気になりかけてたころの症状なんですけど、統合失調症になっちゃってですね。その職場のせいかどうか分からないですけど、私はきつとそうだろうと思ってるんですけど。統合失調症になっちゃって、職場は辞めてから1週間で入院しまして。変な症状が出てきたんで、よう分からん日本語じゃない言葉でなんかごちゃごちゃ、ごちゃごちゃ言い出したらしくって、3カ月ほど入院して。で、出てきて、取りあえず、自宅治療にしましょうかってなって、ほんで、以前通ってた、退院してしばらく3カ月ぐらいは何もどこにも、どこにも行っていないわけではないですけど、ろれつが回らなかったりとか、薬の副作用でですね。今、普通にこういうふうにしちゃべれてますけど、全然しちゃべれない状態

だったんですけど、それから今度はギャンブルが始まったんですね。

うん。ギャンブルをしたら、今度はまた違う依存の意味で快感になって、くせになったっていうか、はまっちゃってですね。最初はちょっと 1000 円とか入れて終わるぐらいだったのに、今度は癖になっちゃって、もう…できないやんいうぐらいの額をつぎ込んで、借金もして。サラ金にお金を借りて、限度額マックスまで借りて、いろんな意味でやっちゃって、で、今、いろんな意味でここに来てるんですけど。

今、振り返ってみれば、なんてお金と時間を費やしたんやろうと思ったし、家族にも信頼されず、1 回やると信頼がなくなるってこういうことかと思いましたね。その一瞬の 1 回の信用がなくなって、次の信用を取り戻すのにすごい時間がかかるんですね。すごい不思議やけど。1 回やったら信用されるんかってそういうわけでもないし、それがずっと続いて、続いての信用とか信頼なので、今は家族も兄と母がいるんですけど、お父さんは離婚してるんでないんですけど、応援してくれてるし。そうですね、最近も不安定な時期もあったんですけど、帰りたい気持ちもありますけど、それでもやっぱりほんま 2 日前とか最悪な状態だったんですけど、きょう、こうやって皆さんの前で話ができている自分にびっくりしてますし、こういう話を皆さんの前でして、ちょっとでも、理解までとはいかないと思います。こういう人もいるんだ、こういう体験してる人もいるんだって、それだけ、ちょっとでも思ってくれる人がいるんやったらうれしいですね。

でも、高知はやっぱり時間がゆっくりだし、すごい田舎なんで、昔はすごい田舎をばかにしてたんですけど、私は基本、田舎っていうか、山とか海とかが好きなんで、自然いっぱいな所が好きなんで、自分には向いてるかなと思ってるし、ほんまやったら半年したら京都に戻る予定だったんですけど、京都の施設長には今は京都に戻る気ありませんって言ってるし、もう高知で過ごそうかなとは思っていますね。これから、ちょっとずつまた治療してきたいと思います。ありがとうございます。

【お名前不詳の方】

大阪から来ました。私は覚せい剤使ったのはもっと前からだったんですけど、ここ 2、3 年使ってしまったのはロンドンオリンピックのときにテレビ見てたんですけど、陸上国体 4 位の人間とテレビ見てて、テレビの中の水泳選手はカッコいいけど、お前、肩幅広いだけでテレビに出てない人間はカッコ悪いって言って、思いつ切り暴力振るわれたんですね。ロンドンオリンピックの開催されてる間ずっと、日本選手が活躍してる間ずっと、

ぼこぼこにされて、どうも水泳やってみたいやから、練習に行くなら、契約書書いて、練習に行くなら暴力はやめてあげるって言われたんで、練習に励むことにして、練習してたんですけど、あんまり結果が出なくて……ぼくね、遠泳大会にかえたんですけど……あんまり伸びないんです。

それでちょっと前のリオオリンピックのときに、そういや、テレビの前でテレビ見てたら、殴られたことを思い出して、野宿しに行ったんですね。滋賀県に。大阪に帰ってない。毎日、太陽が昇って、太陽が沈んだら、月の下で、湖のほとりで寝てっていうのを 1 か月間続けてたんですけど、なんか、その間に西成っていう、大阪に覚せい剤のメッカみたいなどの場所があるんですけど、そこにご飯はうまい棒だけ、なんか人様にちょっと恵んでくださいとか言って、200 円ぐらいだけ恵んでもろて、そのリオオリンピック開催中はうまい棒だけほとんど食ってたんですけど、なんか電車賃が手に入って、仕事もちょっと大阪のミナミかどっかでできたらしてたんですけど、野宿が疲れたから、ちょっと風俗かどっか行って、そこで寝たりとかして、ちょっとはお金稼いでたんですけども、ほとんど野宿で。西成のほうの覚せい剤のメッカって呼ばれる場所で、男の方に声掛けられたんですけど、それで野宿しんどいからおうちおいでって言われて、おうち入ったんですけど、それが 2 年前ぐらいですね。

それまでは全然、もっと前からやってたんですけど、2 年前ぐらいに覚せい剤のメッカの西成でいきなり電話で注文されましたね。覚せい剤持ってきて。もういきなり部屋入ったら、注文されて、持ってこられて。血管を見つけたのが月の光の下にずっといたんで、血管がきれいに浮いちゃって、注射器がすごい針の位置が当たるんですね。針の位置が外れると、面倒くさくて、やっぱりやめたとかっていうときあるんですけど、針の位置がくそきれいに当たるんで、そのまま覚せい剤にはまってる。

陸上国体 4 位の人間の人は別に、7、8 年一緒に住んでたんですけど、そのとき、西成のまた別の方に声掛けられて、生活保護でこっちに引っ越して住まないかって言われて、その覚せい剤のメッカに住んでしまったわけなんです。それでそこからすごかったですね。

それからもう始めに声掛けてもらった方の横の方が広島の方なんですけど、何を……てるのか分かんないですけど、小指もなくて。でも、広島カープの野球選手のことかどうのとかって言うてるから、どっちかっていうと覚せい剤とかはせこい考え方で、選手、水泳とか頑張ってるのやったらそういうの使用せえへんって言うから、できるだけやめればっていうニュアンスも入って

るけど、でも、覚せい剤あげるって言われてしまって。その生活保護組んでくれた方が次の彼氏になったのか分からないですけど、取りあえず、前の7, 8年一緒に住んでた国体で4位の方はけっこう悪い人間は見たくないっていうことで、オリンピック中にテレビの中の映像は見たいんやけど、肩幅が広い、水泳をちょっと頑張った人間は家にいてほしくないっていうことで殴られてたんで、学習して、出て行ってしまったんですね。それは……あれで、3時間とか、5時間とか頑張って練習してたんですけど、全然伸びなくて、オリンピック選手とか以前の問題になってしまって。なんか情けなくて、野宿が止まらなかったですね。野宿するしかなかったですね。それで、野宿も疲れてたし、生活保護でおうちを与えてもらえるから、案外、楽で。

でも、一応、テレビ、ブラウン管の中でオリンピック出て人間はけっこういいっていうことは聞いてたんで、山登りし始めたんですけど、山から帰って来た人間は偉そうになりがちやって、本で読んだんですね。山から帰って来た人間ほど偉そうな態度取る人間はいないっていう、そういうふうを読んだんですけど、それはどういう態度をもって、家に帰ったらいいか分からなくて、山に登ってるときはしらふで登ってたんですけど、帰って来たらそれこそ偉そうな態度っていうんですかね。覚せい剤ほしいんですって電話して、そんでもうじゃあ、今からあなたの所へ持って行くから待ってって言って、待ってる立場ですけど偉そうになって、大本教えてくださいますかと言ってたんですね。

大本の人が来て、大本の人がなんで呼ぶのとか言われたんですね。なんで大本まで知れたがのって。それこそ偉そうな態度なんですよ。大本まで知れたがることが。普通は誰々に……さんが取りに来るとか、大本の方とは下手踏んだらいけないとか、やくざ屋さんなんかも知らないし、大本は怖い方の場合が多いから、ちょっとそんな方とは知り合いになりたいっていうこと自体、偉そうな態度だったんですけど、なんか山を登ると人間偉そうになるっていうか、いうみたいで、もうちょっと謙虚に家に帰ればよかったんですけど。

生活保護を組んでくれた彼氏なんか、なんか分からない人は、浮気っていうか、女の子に走るし、巨乳に走りがるんですよ。お父さまとお母さまから途中で捨てられた方で、お母さんはヌードダンサーでお父さんはホームレム作ってたっていう人だったんで、西成やからやっぱり変わった方は、変わった生活、人生送られてきた方が多いんだなって思ってたんですけど、その父親のほうの感覚に似て、女の子に走るから、私、ちょっと、何て言うんですかね。守っていただけるには不安定みたいな感覚に陥ったんですね。

私、障害者手帳2級の精神障害持っていて、なんでかは分からないんですけど、生まれた所は……汚い川の前で育って、動物の死体回収とか、死体袋とかガッサリとかよく見てたんですけど、私もその背中を見て、上の人の背中を見て育ってしまうと死体回収とかしてしまって、カラスとかも4匹とか5匹か拾って食べましたね。ご飯がなかったんですけどね。ご飯がなかったらカラスを。去年は山に帰って、蛇が死んでたんで4匹食べましたね。死体回収とかなんかそういう、精神的にはたから見たら、ちょっと変な人なんじゃないのかなっていうような、食べもんもそんなに食べたりしちゃうんですよ。山に取りに行ったり、カラス食べちゃったり。

ほんで、演技性人格障害っていうのを持っていて、人によって態度をコロコロ、コロコロ変えて、本当の自分は寝るときだけ本当の自分で、寝てる以外は全部、全て演技っていうのは演技性人格障害っていうんですけど、そのために睡眠障害になって、学校に行けなくなったことがあるんですよ。起きれないんです。どうしても寝てしまって。人付き合いをしようとしたら演技性なんで、演技をしないといけないっていう。人付き合いが演技から始まるから、あんまりにも演技に疲れて、寝て、寝て起きないから、医者からリタリンっていう劇薬の処方、第1級のすごい危険な処方箋でリタリンっていう覚せい剤とほとんど成分が一緒の劇薬の処方箋をもらってたんですけど、それが18やったかな。

10代と二十歳の前半には毎日のように覚せい剤とほぼ同じ成分の薬をずっと朝昼晩決められてた物、飲んでたんですよ。毎日、覚せい剤をやってるのと同じ状態だったんですけど、それが処方箋って言われたので飲んでたんですけど、自力でやめましたね。自力でやめて……戦うのは自力で戦うのはやっぱりカッコいい姿で、中途半端なやつこ悪い姿は殴るぞって言って、殴られる生活を7, 8年覚せい剤なしで送ってたんですけど。それも痛くてね。痛いし、もう自力なんかやめちゃえとか思っちゃったんですね。

でも、そうですね。自力やめちゃえとか思っちゃった辺りから、覚せい剤、どうしたらいいのか分かんないんですけどね。とにかく、警察に捕まってしまったんですよ。それで警察からすぐ拘留所行って、前回使用より10年が開いてたので、ダルクに行っていよいよって言われて、懲役は1.5年ぐらいで、ダルクから出たら、すぐに1.5年に加算されて、罪が加算されてっていうような覚せい剤に手を出してしまいそうなんですけど。でも、ダルクに来たのは、まず、水泳が遅くなるんでタバコと覚せい剤はやめることを目的でダルクに行きました。

10年前の使用っていうのは、大阪のミナミのひっかけ橋みたいな所歩いてたら、いきなり、姉御さんの……の方

にやくざ屋さんの事務所に連れて行かれて、姉御さんが目付けててん、前からって。あなた、1回10万で援助交際して、覚せい剤付きで、でも、やくざやから逃げられへんよって言われて。それで10年前、やくざ屋さんを相手に注射器を売って、援助交際してたり。のが、10年前だったんですけど、20代前半だったんですけど、怖かったですね。

日本刀とかもあるし、バタフライナイフも首に付けられるし。しかも1回の注射器の使用がやくざ屋さんやから1時間おきに1本とか、30分とかなんです。それに付き合ってたんですけど、ある日、なんか逃げそうな感覚があったから逃げて、警察に捕まったんですよ。それで10年前はやくざ屋さんの事務所から逃げれたんですけど。

初めに使ったのは17歳のころで、一緒に遊んでたお兄ちゃんみたいな知り合いだったんですけど、案外、量はいってると思います。それで、もしかしたら、多分、自力でブラウン管の中で戦ってる人間はかっこよくて、肩幅広くなってお前なんかダサいって殴って、殴りながら教育してくれてたご主人さまがいて、7、8年薬をストップしてたんですけど、もしかしたら、その方の考え方が正しくて、暴力やっぱり痛かったんですけど、痛いから正しいかどうか分からないんですけど、痛くても、もしかしたら、その考え方が正しかったのかなと思って、今も四国ダルクよりかは、その方は茨城に住んでるんですけど、四国よりかは茨城、その方の言ってることがどうも正しそうなので、茨城のダルクに引っ越したいなって、今、申請をしています。そんな感じです。どうもありがとうございます。

【カズさん】

依存症のカズです。今回、きょう、ここに立たせてもらってるんですけど、前回は何年前だっけ、4年ぐらい前に、今、いらしやる先輩方の前で話させてもらって、私の話は長くなるんで、飛ばし飛ばし行くんですけど、私が薬物っていうか、小学校の低学年とかまでは多分、世間でいう普通に仲のいい家族に見えていいねとかって言われて、小学校の高学年になったごろから、兄の暴力が始まったんですね。すごく痛かったけど、笑っていません。くちやお母さんにばれるとか、親に笑っててほしかったっていう思いでずっと我慢してました。

少しして、兄からの性的暴力が始まって、親戚のおじさんとかにも同じようなことをされて、我慢してたんですけど、中学校になって、何だろうな。いつぐらいだったかな。最初はシンナーから始まって、小学校のときにタバコを吸って、中学校でシンナーを覚えて、私が中学校卒業したぐらいから、あまり家に帰らなくなって、

家で寝たときに、夜遅く家に帰って寝たら、両親が部屋に入ってきて、私の腕を、シンナーはうちの家も、そのころはオッケーっていうのかかしんですけど、家に帰ってくればやってもいいみたいな感じになって。それも寂しいんですけど、そうすると腕を親が調べてたんですよ。ああ、やってやろうと思って、覚せい剤のことなんだなと思って、やってやろうと思って。

ただ単にそこは思ってただけなんですけど、だんだん家に帰らなくなって、ずっと我慢してたものが爆発して、何だろう。1日帰らない、2日帰らない、1週間帰らない、1カ月帰らないとかっていうだんだん伸びていって。一緒に遊んでた先輩と後輩がなんかいつも目の輝きが違って、どうしたのって言ったら、覚せい剤やってるって言ったんで、もう本当にのりですね。持ってきてよってなって、やったんですけど、やってもらったんですけど、なんか悪いな、すごい悪いことしたと思って、私、泣き崩れて、もう二度としないと思ってたんですけど、それからすぐ、持ってきてもらったやくざの人に拉致られて、よくテレビで見るようなシャブづけにつけられて。

3日間監禁されて、解放されるときには言葉もしゃべれなくて、どうにかこうにか動く感じで家に帰ったんですね。タクシーを拾って。親にお金を払ってもらって。何してたのって言われて、片言しかしゃべれないから、薬が効いてて、シンナー吸ってきたって言ったら、部屋に入れたんですけど、それで3日ぐらいい寝て、禁断症状がだんだん、今は分かるんですけど、何が何かっていうのが。禁断症状が出て、体がガタガタ震える。寒い熱いとか本当にドラマみたいな感じで、私も簡単な頭で薬を入れれば治るだろうっていう、やっぱテレビとか映画とかで見る感じで、その拉致ったはずの怖いやくざに電話して、持ってきてもらったのが乱用をする始まりでした。

それから21のときに結婚して、そのときまではずっと覚せい剤をして捕まったことがなくて、21で一応、結婚をすることになって、覚せい剤とかそういう、タバコは吸ってましたけど、アルコールも飲んでましたけど、やめましたね。やめたっていうか、また復活してるんで、休憩してました。28か29のころに離婚をして、少しして、また覚せい剤の乱用が始まりました。

すごくしんどくて、何だろう。旦那のね、ずっと結婚生活っていうのが旦那のDVだとか、子ども3人いるんですけど、子どもに対する暴力だとか。そうですね。多分、本当死にかけ、死にかけっていうか、死ぬ間際っていうか、子どもも私もいつもやられて。真ん中の息子が障害を持っているんですね。難聴なんですけど。息子、笑うんだけど、本気で笑った顔見たことがなくて。結婚生活で。離婚して、1週間ぐらいいしたら、すごく笑う子に戻って、離婚して良かったなと思ったんだけど、

なんで私が高知ダルクにいて、出て、また戻ってきたかっていうと、今、いろいろ思い返してみても、確かにダルクにいるときには私は薬物が止まってたんですね。やっぱり同じように薬物を使って、気持ちいが分かりあえるっていうか、毎日ミーティングしてて、薬物ばっかりの話をするんじゃないんですけど、分かち合えるっていうか。本当は今回、出所するときに娘、今、二十歳なんですけど、一緒に私と住みたいって家を借りてくれたんですけど、こっちに来る前に娘の所に何日か行ったんですけど、娘も私がこんな状態で実家でやっぱりすごい厳しく育てられて、苦しかったんですかね。感情を出さない子になってしまっていて、仕事も今、うちの娘は夜の飲み屋と、あとデリヘルをやっていて、それも止めない母親なんで、私は。薬物やらなければ何をやってもいいとは限らないけど、頑張ってるんだったらいいかなみたいな感じで。

そうですね。私が長年いろんな薬物と、脱法ハーブまではやってないんですけど、ほとんど薬物やってきて、一番親にされてしんどかったことは無視ですね。怒ってるときにはもうほんまにうざいし、うるさいだけ。取りあえず、一番しんどかったのは本当に全然突き放されて、12時には鍵が閉まって。無視が一番しんどかったかな。学校なんか、私、学校が好きじゃなかったんで、中学校のときもあんまり行ってないし、行ってもホームルーム終わったら帰るし、そんなことしても全然、先生も止めないし。家も殴られたりするし、あんまり居場所っていう居場所は私にはないなって、なかったような気がしますね。でも、今、こっちに来る前に、毎回なんですけど、取っ捕まって、薬が抜けてまともになると、平常心になると、うっとおしかった家族がすごいそこに戻りたくて。

だけど、今回、いつもは……な手紙を家族に書くんですけど、刑務所の中で。1回は書いたけど、もう来なくてもいい、そのままにして、ずっと待つだけをして。今回は満期の釈放で釈放されて、最後、こっちの高知に来るっていうことを決めて、そしたら、その間ね、姉が仕事の途中とかに娘の所に来て私と話をしたりとか、ずっとしてたんですけど、なんか私が変わってる状態を私には分からないんですけど、私が変わってる状態を姪っ子とか、うちの母とかに言ったら、当分会えないから会いたいって言うてくれて、こっちに来る前に会えたんですけどね。

【アヤさん】。

自分が薬物を興味持ったのは多分、中学生のころかなと思います。当時、危険ドラッグっていう、合法の薬があると思うんですけど、もっと出始めっていうか、そういうものにネットで合法の薬を買ったのがきっかけだったかなって思います。その当時はすごい思春期独特のっていうか、全てが嫌な気持ちっていうか、もやもやした気持ち、その発散の方法が自分にとって手軽に思えたんですね。薬、即変わったりとか、自分が努力せずに何かを得るような、自分にとっては薬物を使うことで快楽を瞬時に得れる。そういう即物的なものっていうか、そういう物が必要だったし、その当時はそれがかっこいいというふうに勘違いしていました。そういうかわいそうな自分っていうかな。

— 180 —

母親も専業主婦やし、普通の家庭やったように今、思えば思うんですけど、そういうことがすごい嫌だったんですよ。普通が嫌っていうか。だから、本当に思春期独特だったように思うんですけど。でも、やっぱり満足することがなかったのはその当時からで、使えばもっとなる。1個快樂があれば、じゃあ、もっと次、大きな快樂を得れるんじゃないか。もっと簡単にね。てなったときに、やっぱりどんどん危ない方向に行ったら、自分を傷付ける方法、その当時は若かったんで体を売ったりとか、自分に価値がないと思ってましたね。思い込んでたというか。普通にバイトすりゃいいんだけど、自分にはそういう能力がないと思ってたんで、じゃあ、もう自分に価値のあるものってそういうことしかないって、自分で判断してましたね。別に誰に言われたわけでもなくて、自分でそういう人間なんだって。でも、そうやって決めることで自分に酔ってた面っていうのはあるのかなって、今、思えば思います。そういうかわいそうな自分が好きっていうか。そういうふうには思っていました。

だから、高校生になって、体重がすごく、中学生のころに増えて、痩せたいと思ったときに、友達が痩せる薬あるよって言われたときに、ああ、もう、これしかないなって思ったし、なんかそのハードルがすごい低かったっていうか。自分の体が大切だとか、なんかそういうふうには全く思えなくて、よく言われてました。友達からも。もっと大切にされた方がいいよって、自分のこと大切にされた方がいいよって言われてたんですけど、してるけどみたいなの、そういう世間っていうか、周りの人が見る自分と、自分が思う自分のすごいギャップがあるっていうか。自分的には大切にしてたつもりなんだけどなって、周りからしたらどうもそうは見れないみたいなの。そういうことは思っていましたね。でも、その差を埋めること、埋めるすべも分かんなかったし、どうしていいかも分かんなかったですね。だから、使って、でも、すぐに捕まったんですよね。

当時17歳だったと思うんですけど、鑑別所に行って、すぐに出てきたんですけどね。そのときにダルクにつながりました。親が相談に行ったら、大阪ダルクですけどね。大阪ダルクにつながったのがきっかけですよ。それから1年ぐらいして、高校のときに使ったので、友達と一緒に使ったので、やめました。高校。だから、通信制の高校を出るためにダルクに入寮して、1年経ったときに通信の高校に行ったら、卒業したんですけど、それから自分は大丈夫やろっていう気持ちと、また薬を使うことはないだろうって気持ちと、このままいったらまたいつか使うだろうなって、自分がそうやって駄目なときとか、問題が起こったときに使いたいと思うだろうなって、そのとき思っていましたけど、でも、それを正直になること

はできなかったです。口ではもうやめれると思ひまして、私、大丈夫なんで、もう刑務所入りたくないして、自分、大事なんでって嘘言っていましたね。でも、それには気付かないふりしてました。自分が本当は使いたいと思っていること。そのことは本当は寂しくて仕方がないこととか、そういうことも言えずに、それは別に何て言うかな。自分で選んで言わずにいてたかなって思いますね。

4年ぐらいして、専門学校に行ったんですけど、ぶち当たりましたね。壁っていうか。美容師の学校に行ったんですけど、すごい努力をされてるんですね。友達は。すごい努力をしてて、自分はもともと持ってる樂して結果が欲しい、すぐよくなりたいって、努力はしたくないけどっていうのがあって、だから、口でもおつきなこと言っていました。そんなテスト余裕やって。でも、実際にふたを開けてみればぼろぼろで、そのギャップにすごい自分の中でついていけなくなった。かといって、自分は謙虚な態度になることも、努力することもそういうこともできなくなったときにやっぱり薬やなって、あ、自分の心を楽にしてくれるのは薬やって思っ、すぐに段取りっていうか。そういうときの行動力って半端ないんで、バババババって、段取りをしてたかなって思います。

でも、そのとき、自分は、何て言うかな。止まんないだろうなって、また使ったら自分は薬物止まんないだろうなって思いながら使いました。そっから止まらない日々が続いて、いろんなことをしましたね。いろんなこととして、幻覚とかも見えたり、幻聴とか、本当におかしな行動し続けて、人間以下っていうか、人間ではないですね。人間の生活はできないと思います。何て言うかな。ごみだめみたいな部屋で一人でご飯も食べれず、お風呂も入れず、物を移動すればその場にほったらかしたりして、倒れながらこのまま死ぬかもなって思いましたね。

でも、死ぬこともできなくて、やっぱり、助けてほしいって実家に電話をしました。外に出れないんですね。外に出れなくて、のぞき穴みたいな所ずっといるから、本当にそんな感じなんです。本当、それがおかしいと思っ、でないんですよ。それが普通やって。本当にそのときは頭おかしいんで、今もおかしいですけど、本当にそんな状態が続いて。でも、助けてほしいって言ったときにやっぱり周りの人が動いてくれたっていうか、親であったり、施設の人であったりとか、いろんな人が関わってくれて、自分は今もこうしてここに来てるんですけど。

それから、何て言うかな。じゃあ、薬をやめることになって、じゃあ、薬をやめようって思っ、仲間の中で生活してても、やっぱり自分の問題って薬物以外のところにもすごくあって、薬物を使うってことはただの症状の一つというか。なんですね。実はその奥には自分の思っ、てる大きな問題、自分の生活の、性格の考え方であっ

たりとか、ものの捉え方であるとか、普通のこと、例えば、ご飯、食事すること、洗濯することとか、掃除することとか、そういうこと一切せずにやってたので、まずそっからでしたね。ちゃんとご飯を食べたりとか、そうやって当たり前のことをずっとダルクで学んできたように思います。はい。

普通の生活っていうか、人間になるための生活っていうのかな。薬を使いたくなるときとか今もあって、今、私、8年間、薬はやまってるんですけど、そのときにやっぱり言いますね。今、薬使いたくなっちゃったって。そのときに仲間はそうだねって、使いたいよねって。その共感、あ、分かるって、私も一緒やでって言ってくれる安心感っていうか、それがダルクの魅力の一つかなって思いますね。みんなそれぞれ環境も、育ってきた場所も何もかも違うんですけど、薬はやめて生活していきたいっていう気持ちは一つだと、そこに向かって行ってるのかなっていう意識はあるので、それは思いますね。

あとは依存症、以前に違う学校っていうか、大学ではないんですけど、中学生の講演に行かせてもらったことがあって、そのとき、結構、前なんですけど、なんかね、そのときの自分って、薬使ってきた人間がやめろっていう資格なんかないって、そのとき思ったんですね。あんた、使ってるやんって言われたときに、何も言われへんって。だから、薬はやめたほうがいいよって、その中学生たちに言うことが、当時の自分ができなかったことを思い出していて、自信もなくて、まあ、今もないんですけど、本当に自分なんかが言う資格あるのかなって思ってたんですけど、でも、今なら絶対やめとったほうがいいって思うんですね。

でも、使って依存症になったこと自体は、最近では後悔とかしてなくて、それも何て言うかな。なって良かったなって思える部分も、こういうのも変なんですけど、なんかあって。いろいろなプログラムがあるんですけど、正直さ、心開くこと、やる気とか、いろんなプログラム、きょう1日だけ生きるとか、先のことを考えたら、本当に先のことを考えたらめっちゃめっちゃ不安やし、過去のことを考えたら後悔で死にそうになる。だから、きょう1日だけ精いっぱい生きるっていう、そういうスローガンがあるんですけど、そういうものとか、自分が依存症にならなかったら、体験として得られなかったのかなって思うし、そういう部分ではよかったのかなっていう思う部分もありますね。なんで、先生にその当時、何を言ってほしかったかなって思ってたんですけど、いろんな人が手を差し伸べてくれてたんですよね。そっちはあかんって、そっちは危ないって。でも、その当時の自分って全く聞く耳を持てなくて、親もそうですけど、うるさいわぐらいのことしかね、本当失礼なんだけど思ってたなく

て。

でも、自分でもどうしていいかわからないんですよね。でも、何だろう。こういう場所があるとか、自助グループがあるとか、1回行ってみたらとか、そういうことを、たればの話なんであれなんですけど、こういう場所があるっていうのは自分にとってはおっきな存在かなって思っているんで、やめ続けることに終わりはないかなっていうのも思ってます。何て言うかな。完全な回復はないというか、多分、この先、何年たっても、何十年たっても、自分はまだ回復中であるのかなっていうのも思うので、それも全部過程なのかなって思うので、まあ、きょう1日精いっぱい生きればいいのかと思います。ありがとうございました